

明治二十九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

引士華筆受

仙蘭西

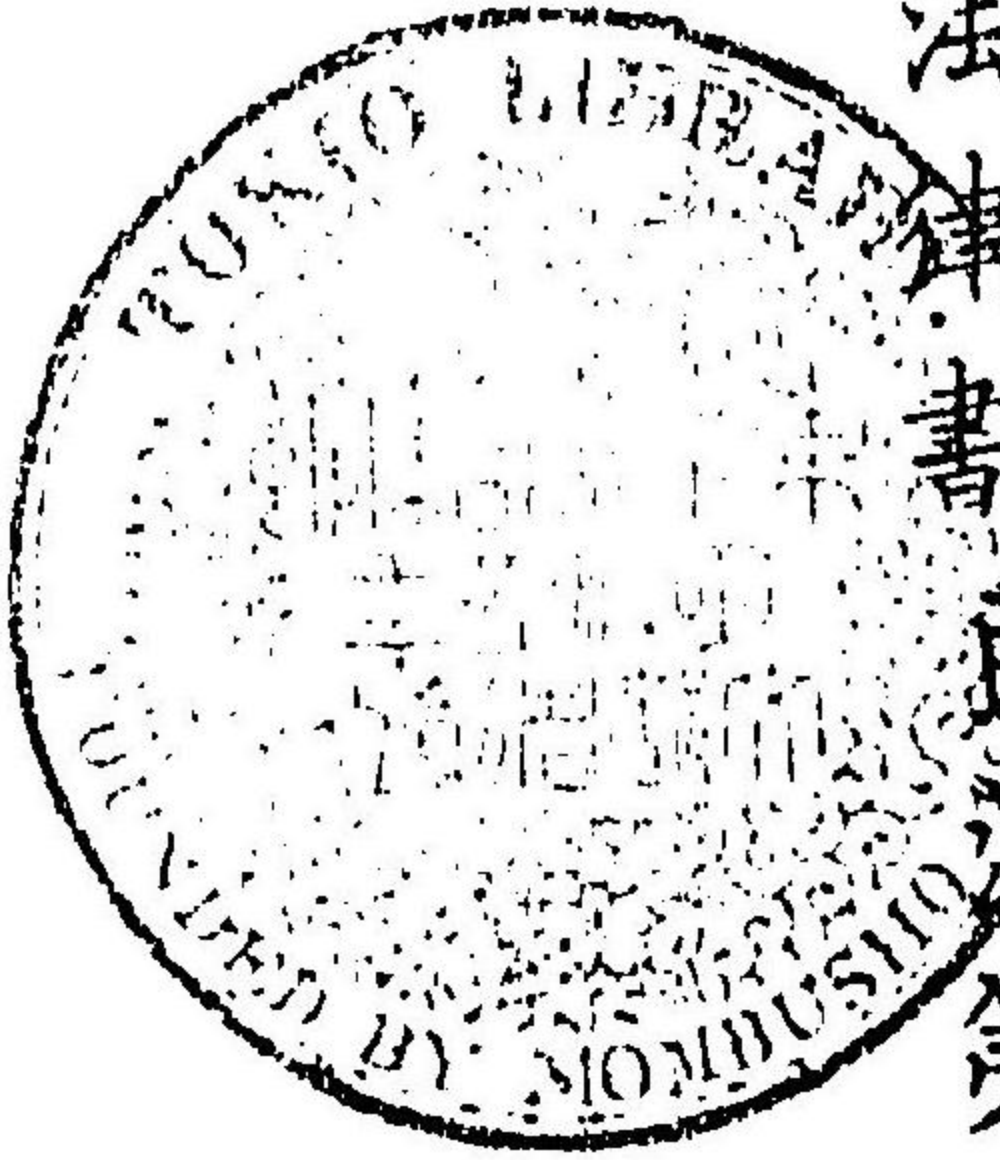
法律書

民法

文部省

CF2
3
07

佛蘭西法律書 民法第十六



文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

○第十九卷 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可

キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事及

ヒ義務ヲ得可キ者ノ順序千八百四年

第三月十九日決定同月廿九日布告

○第一章 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可

キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事

佛蘭西法律書

第三卷第十九卷第一章

文部省

CF2
3
07



佛蘭西法律書
民法第十六

文部少博士箕作麟祥口譯

明治九年文部省交付

第十九卷 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可

キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事及

ヒ義務ヲ得可キ者ノ順序千八百四年

第三月十九日決定同月廿九日布告

○第一章 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可

キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事

明治九年未刊行

文部少博士箕作麟祥口譯

以上筆筆受

仏蘭西

法律書

民法

文部省

第一千二百四條 義務ヲ得可キ者ハ左ノ諸件
ヲ抵償トシテ奪フ可キヲ裁判所ニ訴出ス
ルヲ得可シ

第一 義務ヲ行フ可キ者ノ所有スル不
動産及ヒ其不動産ニ附帯シテ不動産
ナリト看做ス可キ物

第二 不動産ニ付^キ義務ヲ行フ可キ者ノ
有スル入額所得ノ權

第一千二百五條 然レ遺物相續人中ノ一人其
相續ス可キ不動産ヲ他ノ相續人等ト共通シ

テ未^ク之ヲ分^クタル時ハ其相續人ノ一身ヨ
リ義務ヲ得可キ者他ノ相續人等ヲシテ其不
動産ヲ分派セシメ又ハ糶賣ト為サレタル
後ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フ
ト^ク得ス又相續人等自カラ其分派又ハ糶賣
ヲ為サントスル時ハ其義務ヲ得可キ者第八
百八十二條ニ循ヒ之ニ干渉シテ其分派又ハ
糶賣ヲ為シタル後ニ非サレハ其不動産ヲ抵
償トシテ賣拂フト^ク得ス

第一千二百六條 既ニ後見ヲ免^レタルト否ト

ヲ問ハス幼者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者ヨリ義務ヲ得可キ者ハ先ッ其動産ヲ以テ其義務ノ償ヲ得ルニ充テ用ヒ猶其不足ナル上ニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フヲ得ス

第二千二百七條 丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者ト連帯シテ義務ヲ負フタル時又ハ義務ヲ得可キ者其丁年者ニ對シテ既ニ其財産ヲ抵償ト為ス可キ訴ヲ為レ始メタル時又ハ其義務ヲ得可キ者治産ノ禁ヲ受ケン者

ノ未タ之ヲ受ケサル中ニ其財産ヲ抵償ト為シ可キ訴ヲ為レ始メタル時ハ其丁年者ト幼者又ハ治産ノ禁ヲ受ケン者ト共通スル不動産ヲ抵償トシテ賣拂フ前ニ先ッ其動産ヲ以テ義務ノ償ニ充テ用フルヲ必要トセス

第二千二百八條 夫婦ノ共通スル不動産ヲ抵償トシテ奪フハ夫婦其夫ト共ニ義務ヲ負フタル時ト雖モ其夫ノニ對シテ之ヲ訴フ可シ
夫婦ノ共通セサル婦ノ不動産ヲ抵償トシテ

奪フ、ハ夫婦雙方ニ對シテ訴ヲ為ス可シ但
 レ夫其婦ト共ニ裁判所ニ出ルヲ肯セヌ又
 ハ夫ノ幼年ナル時ハ其婦裁判所ニ出ツ可キ
 ノ允許ヲ受ク可シ
 又夫婦共ニ幼年ナル時又ハ婦幼年ニシテ丁
 年ノ夫其婦ト共ニ裁判所ニ出ルヲ肯セサル
 時ハ裁判所ヨリ其婦ノ為メ特ニ後見人ヲ任
 シ義務ヲ得可キ者其後見人ニ對シテ不動産
 ヲ抵償ト為スノ訴ヲ為ス可シ
 第二千二百九條 凡ソ義務ヲ得可キ者ハ其ノ

ポテ一クトレテ得タル不動産ノ不足ナル時
 ニ非サレハノイポテ一クト為シ、ル不動産ノ
 賣拂ヲ訴フルヲ得ス

第二千二百十條 數箇ノ下等裁判所ノ管轄内
 ニアル不動産ヲ抵償トレテ奪ヒ之ヲ賣拂フ
 一ハ同時ニ之ヲ訴テ可カラス先ッ其事ヲ一
 ノ裁判所ニ訴ヘ次ニ他ノ裁判所ニ訴テ可シ
 但シ其不動産相連接レテ且其耕作ノ法同一
 ナル時ハ格別ナリトス
 其不動産相連接レテ其耕作ノ法同一ナル時

ハ其不動産中首タル家屋ノアル部分ヲ管轄
スル裁判所ニ其訴ヲ為レ又首タル家屋ノア
ラサル時ハ地稅ノ目錄ニ從ヒ其入額ノ最モ
多キ部分ヲ管轄スル裁判所ニ其訴ヲ為ス可
レ

第一千二百十一條 イポテークト為レタル不
動産トイポテークト為サル不動産ト同一
ノ裁判所管轄内ニ在リテ相連接シ且其耕作
ノ法同一ナル時又ハ此等ノ不動産相異ナリ
タル裁判所ノ管轄ニ屬スルト雖トモ相連接

シテ且其耕作ノ法同一ナル時ハ義務ヲ行フ
可キ者ノ求メニ從ニ此等ノ不動産ヲ同時ニ
抵償トシテ賣拂フテ義務ヲ得可キ者ヨリ
訴フ可レ但シ此場合ニ於テハ糶賣ト為レタ
ル其全部ノ價中ニテ其各部ノ價ヲ秤ル可シ
第一千二百十二條 義務ヲ行フ可キ者其不動
産ヨリ一年間得ル所ノ實利ノ入額ヲ以テ義
務ノ母銀息銀並ニ其費用ヲ償フニ足ル可キ
テ其不動産貸貸ノ公正ノ證書ヲ以テ証シ
且其一年間ノ入額ヲ義務ヲ得可キ者ニ委遺

セントスルヲ述フル時ハ裁判役其不動産
 ノ抵償トシテ奪フ可キノ訴ヲ止メシムルヲ
 得可シ但シ其後ニ至リ其入額ヲ以テ義務ヲ
 得ルニ充テ用フルノ妨ケヲ生シ又ハ故障ヲ
 述ノル者アル時ハ再々其不動産ヲ抵償トシ
 テ奪フ可キノ訴ヲ為ス可シ

第一千二百十三條 義務ノ高定リタルモノニ
 シテ且其義務ヲ行ハサル者ノ不動産ヲ以テ
 其償ニ充ツ可キ旨ヲ記シタル公正ノ證書ア
 ルニ非サレハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フ

ヲ訴フ可カラス○其義務ノ高定マラサル
 時ハ其不動産ヲ抵償トシテ賣拂フノ訴ハ其
 効アリト雖モ其糶賣ハ其高ヲ定メタル後ニ
 非サレハ為スヲ得ス

第一千二百十四條 義務ヲ行ハサル者ノ不動
 産ヲ以テ其償ニ充ツ可キ旨ヲ記シタル證書
 ヲ譲リ受ケタル者ハ其譲リ受ケノ旨ヲ義務
 ヲ行フ可キ者ニ報告シタル後ニ非サレハ其
 不動産ヲ抵償トシテ奪フヲ訴フ可カラス
 第一千二百十五條 其訴訟ハ控訴ニ管セス假

リニ執行ヲ可キ假リノ裁判言渡又ハ確定ノ
 裁判言渡ヲ以テ之ヲ為スヲ得可シ然レ不
 動産ノ糶賣ハ終審ノ確定ノ裁判言渡又ハ控
 訴スルヲ得サル確定ノ裁判言渡ヲ得タル
 後ニ非サレハ之ヲ為ス可カラズ
 又義務ヲ行フ可キ者ノ抗傳シテ為シタル裁
 判言渡ノ時ハ其者ノ故障ヲ述フルヲ得可
 キ期限内ニ同上ノ訴訟ヲ為スヲ得ス
 第二千二百十六條 其訴訟ハ義務ヲ得可キ者
 ノ當然得可キ義務ノ高ヨリ更ニ多キ高ニ付

キ之ヲ為シタルヲ口實トシテ取消ス可カ
 ラス

第二千二百十七條 義務ヲ得可キ者ハ之ヲ行
 フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ可キノ
 訴訟ヲ為ス前ニ門監ヲシテ其義務ヲ行フ可
 キ者又ハ其住所ニ義務ヲ行フヲ求ムル要
 決ノ書ヲ送達セシム可シ
 其要決ノ書ヲ記スル法式及ヒ其訴訟ノ法式
 ハ訴訟法ニ之ヲ定ム訴訟法第六百七
 十三條以下見合
 ○第二章 義務ヲ得可キ者ノ順序及ヒ

不動産價高ノ分派

第二千二百十八條 不動産ノ價高ヲ得ル順序
 及ヒ其分派並ニ之ヲ取扱フ方法ハ訴訟法ニ
 之ヲ定ム訴訟法第六百五十六條以下第六百
 第六十七條以下
 第七百七十五
 條以下見合

○第二十卷

プレスクリプシノ權(千八
 百四年第三月十五日決定同月二十五
 日布告)

○第一章 總規則

第二千二百十九條

プレスクリプシノ權ト
 ハ法律上ニテ特ニ定メタル規則ニ循ヒ定期
 ノ時間ノ經過スルニ因リ物件ノ所有ヲ得又
 ハ義務ヲ免ル、權ヲ云フ

第二千二百二十條

如何ナル人ト雖モ預レノ
 プレスクリプシノ權ヲ拋棄スルヲ得ス

然其既ニ得タル物ノスクリプシノ權ハ之
ノ拋棄スルヲ得可シ

第一千二百二十一條
アレスクリプシノ權
ヲ拋棄スルヲハ明許又ハ黙許ヲ以テ之ヲ為
ス可シ但レ黙許ノ拋棄ハアレスクリプシ
ノ權ヲ拋棄シタル可シト思料スルヲ得可キ
景狀ニ管スルモノトス

第一千二百二十二條
人ニ物ヲ賣リ又ハ與フ
可キノ權ナキ者ハ既ニ得タルアレスクリプ
シノ權ヲ拋棄スルヲ得ス

第一千二百二十三條
アレスクリプシノ權
ヲ得タル者明許又ハ黙許ヲ以テ其權ヲ拋棄
シタル時ハ裁判役其職務ヲ以テ其權ヲ復サ
シムルヲ得ス

第一千二百二十四條
下等裁判所ニ訴出シタ
ルト上等裁判所ニ訴出レタルトハ問ハス訴
訟ヲ為ス時間何レノ時ニ於テモアレスクリ
プシノ權アルヲ申述フルヲ得可シ但
シアレスクリプシノ權アルヲ述ヘサル
者其時ノ模様ニ因リ其權ヲ拋棄シタルト思

料ス可キ時ハ格別ナリトス

第二千二百二十五條 義務ヲ行フ可キ者又ハ物件ヲ占有シタル者¹プレスクリプションノ權ヲ拋棄スル²雖³其者ヨリ義務ヲ得可キ者又ハ其他⁴プレスクリプションノ權ヲ得ルニ付キ管係アル者ヨリ其權アル⁵ヲ申述⁶フル⁷得可シ

第二千二百二十六條 賣買ヲ為ス可カラサル物件ニ付テハ⁸プレスクリプションノ權ヲ得可カラス

第二千二百二十七條 政府⁹コムニユーシ公クノ建造物ハ平民ニ等シク人ヨリ已ニプレスクリプションヲ負ヒ又ハ已ヨリ人ニ之ヲ負ハシムル¹⁰ヲ得可シ

○第二章 物件ヲ占有スル事

第二千二百二十八條 占有トハ自カラ物件ヲ有シ或ハ權利ヲ行ヒ又ハ名代人ヲレテ物件ヲ有セン¹¹或ハ權利ヲ行ハレメ其物件又ハ權利ヲ已ニ保ツ¹²ヲ云フ

第二千二百二十九條 プレスクリプションノ權

ヲ得ルニハ所有者ノ名義ヲ以テ絶ヘス公ケ
ニ妨ナク物件ヲ占有スルヲ必要トス

第二千二百三十條 初メヨリ他人ノ為メ物ヲ

占有シタルノ證アラサル時ハ自カラ所有者
ノ名義ヲ以テ占有シタルト看做ス可レ

第二千二百三十一條 初メヨリ他人ノ為メ占

有シタル時ハ常ニ其名義ヲ以テ占有シタル
ト看做ス可レ但レ之ニ反シタル證アル時ハ
格別ナリトス

第二千二百三十二條 人ヨリ宥恕ヲ得ノルイ

クニテハ占有ノ權ヲ得可カラス又「ブレ」ス
リ「ブレ」ノ權ヲ得可カラス

第二千二百三十三條 暴行ヲ以テ占有シタル

時ハ「ブレ」スクリ「ブレ」ノ權ヲ得可キ占有ニ
非ストス

其暴行ノ止ミシ時ヨリ後ニ非ザレバ其當然

ノ占有ヲ得タルモノトス可カラス

第二千二百三十四條 現在ノ占有者以前占有

シタルノ證ヲ立ル時ハ其間ノ時ニ於テモ亦
占有シタルト看做ス可レ但レ之ニ反シタル

證アル時ハ格別ナリトス

第二百三十五條 人ヨリ財産ヲ得タル者

ハ其全部ヲ得ルノ名義又ハ其一部ヲ得ルノ

名義又ハ償ヲ出サ、ル名義又ハ償ヲ出ス可

キノ名義ニテ之ヲ得タルヲ問ハスアレリク

リゾレシノ權ヲ得ルニ付キ其財産ヲ與ヘ又

ハ讓リタル者ノ占有ノ期限ヲ自己ノ占有ノ

期限ニ加フルコトヲ得可シ

○第三章 アレスクリゾレシノ權ヲ得

ルコト能ハサル原由

第二百三十六條 他人ノ為メ占有スル者

ハ幾許ノ期限ヲ經ルト雖モアレスクリゾレシ

ノ權ヲ得可カラス

故ニ人ヨリ土地ヲ賃借スル者人ヨリ物件ノ

附託ヲ受ケタル者入額ノミヲ所得ト為ス者

及ヒ其他所有ニ非サル名義ヲ以テ人ノ物件

ヲ占有スル者ハアレスクリゾレシノ權ヲ得

可カラス

第二百三十七條 又前條ニ記スル如ク所

有ニ非サル名義ヲ以テ物件ヲ占有スル者ノ

遺物相續人モ亦ブレスクリプシノ權ヲ得
可カラス

第一千二百三十八條 然ル前二條ニ記シタル
者他人ノ所為ニ因リ又ハ自カヨ所有者ノ權
ヲ拒ムニ因リ物件ヲ有スル名義ノ更改レタ
ル時ハブレスクリプシノ權ヲ得可シ

第一千二百三十九條 土地ヲ貸借スル者物件
ノ附託ヲ受クル者及ヒ其他所有ノ名義ニ非
スレテ物件ヲ有スル者ヨリ所有ノ權ヲ移ス
名義ニテ物件ヲ得タル者ハブレスクリプシ

シノ權ヲ得可シ

第一千二百四十條 如何ナル人ト雖モ物件ヲ
有スルニ付テノ原由ト方法トヲ自カラ更改
スルコトヲ得サルニ因リ證書ニ記シタル名義
ニ反シテブレスクリプシノ權ヲ得可カラ
ス 第一千二百三
十一條見合

第一千二百四十一條 然ル定期ノ時間訴ヲ受
ケサル時ハ人其負フタル義務ノ釋放ヲ得可
キニ因リ其義務ノ證書ノ名義ニ反シテブレ
スクリプシノ權ヲ得可シ 第一千二百三
十四條見合

○第四章 プレスクリプションノ權ヲ得
 可キ期限ノ既ニ経過シタル時間ヲ
 除棄スル原由及ヒ其期限ノ経過ヲ
 一時停止スル原由

○第一款 プレスクリプションノ權ヲ
 得可キ期限ノ既ニ経過シタル時
 間ヲ除棄スル原由

第二千二百四十二條 プレスクリプションノ權
 得可キ期限ヲ既ニ経過シタル時間ヲ自然
 ニ除棄スルコトアリ又ハ法律上ニテ除棄スル

コトアリ

第二千二百四十三條 物件ノ占有者其所有者
 又ハ其他ノ者ノ為メ一年以上ノ時間其占有
 ノ權ヲ奪ハレタル時ハ自然ノ除棄ナリトス
 第二千二百四十四條 プレスクリプションノ權

ヲ得ントスル者其占有スル財産ニ付キ裁判
 所ニ呼出ヲ受ケ又ハ義務ヲ行フ可キ要決ノ
 書ヲ受ケ又ハ義務ノ償トシテ其財産ヲ差押
 ハラレタル時ハ法律上ノ除棄ナリトス

第二千二百四十五條 占有者勸解ノ為メ最下

等裁判所ニ呼出ヲ受ケ其後法律上ニ定メタル期限内ニ下等裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ「ブ」レスクリン「シ」ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ其勸解ノ為メ呼出ノ日ヨリ除棄ス可シ

第二千二百四十六條 占有者裁判所ニ呼出ヲ受ケタル時ハ縱令其所轄ニ非サル裁判所ニ呼出サレタルト雖モ「ブ」レスクリン「シ」ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ

第二千二百四十七條

裁判所ハノ呼出狀法式ニ背キタルニ因リ其効ナキ時

原告人自カラ其訴ヲ止メタル時
原告人其訴訟ヲ永キ時間訴訟法第百九十七條見合其儘ニ捨テ置キタル時

裁判所ニテ其訴ヲ取上ケサル時
此等ノ時ニ於テハ「ブ」レスクリン「シ」ノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可カラス

第二千二百四十八條 義務ヲ行フ可キ者又ハ
 財産ノ占有者其義務ヲ得可キ者又ハ所有者
 ノ權ヲ認メタルニ因リ「ブレスクリプシ」ノ
 權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除
 棄ス可シ

第二千二百四十九條 前數條ニ循ヒ連帶シテ
 義務ヲ行フ可キ者ノ中一人訴訟ヲ受ケタル
 時又ハ其一人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタ
 ル時ハ他ノ義務ヲ行フ可キ者又ハ其遺物相
 續人ノ「ブレスクリプシ」ノ權ヲ得可キ期限

ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ 第一千二百四十六條

合見

連帶シテ義務ヲ行フ可キ者ノ遺物相續人ノ
 中一人訴訟ヲ受ケタル時又ハ其一人義務ヲ
 得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ縱令其義務ニ
 付キ不動産ヲ「イポテーク」下為シタル時ト雖
 其他ノ遺物相續人ノ「ブレスクリプシ」ノ權
 ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄
 ス可キラス但シ其義務ノ分ヲ可カラサルモ
 ノナル時ハ格別ナリトス

其遺物相續人中ノ一人訴訟ヲ受ケ又ハ義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ其一人ノ負ノタル義務ノ部分ノミニ付キテレスクリフ旨レノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過レタル時間ヲ除棄ス可レ

其相續人ノ全負ニ付キテレスクリフ旨レノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過レタル時間ヲ除棄セントスルニハ其各相續人ニ對シ訴訟ヲ為ス^ト又ハ其各相續人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認ム^ルヲ必要トス

第二百二十五條 義務ヲ得可キ者義務ヲ行フ可キ本人ニ對シテ訴訟ヲ為レタル時又ハ其本人義務ヲ得可キ者ノ權ヲ認メタル時ハ其保證人ノ^レレスクリフ旨レノ權ヲ得可キ期限ノ既ニ經過シタル時間ヲ除棄ス可シ

○第二款 ^レレスクリフ旨レノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ一時停止スル理由

第二百五十一條 ^レレスクリフ旨レノ權ヲ得可キ期限ノ經過ハ別段法律上ニ定メ

ル所ノ外何レノ人ニ對スト雖ル之ヲ停止スルヲナカル可シ

第一千二百五十二條 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受

ケレ者ニ對シテハ「レ」レスクリプ「レ」ノ權ヲ

得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ但レ第一千

二百七十八條ニ記スル所及ヒ其他法律上ニ

別段定メタル所ハ格別ナリトス

第一千二百五十三條 又夫婦ノ間ニ於テハ「レ」

レスクリプ「レ」ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ

停止ス可シ

第一千二百五十四條 婚姻レタル婦ニ對シテ

ハ其婦婚姻ノ契約書ニ因リ又ハ裁判言渡ニ

因リ其夫ト財産ヲ分テタルト否トヲ問ハス

夫ノ支配スル財産ニ付キ「レ」レスクリプ「レ」

ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可キヲス

但レ此場合ニ於テハ婦ヨリ其夫ニ對シ償ヲ

得レト訴フルノ權アリ

第一千二百五十五條 然ル第一千五百六十一條

ニ循ヒ嫁資分括ノ法ヲ以テ支配スル婦ノ財

産賣拂ニ付テハ夫婦タル時間其婦ニ對シ「レ」

ル所ノ外何レノ人ニ對スト雖ル之ヲ停止スルコトナカル可シ

第一千二百五十二條 幼者及ヒ治産ノ禁ヲ受

ケレ者ニ對シテハコトレスクリプシレノ權ヲ

得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可シ但レ第一千

二百七十八條ニ記スル所及ヒ其他法律上ニ

別段定メタル所ハ格別ナリトス

第一千二百五十三條 又夫婦ノ間ニ於テハコト

レスクリプシレノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ

停止ス可シ

第一千二百五十四條 婚姻レタル婦ニ對シテ

ハ其婦婚姻ノ契約書ニ因リ又ハ裁判言渡ニ

因リ其夫ト財産ヲ分テタルト否トヲ問ハス

夫ノ支配スル財産ニ付キコトレスクリプシレ

ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可キカス

但レ此場合ニ於テハ婦ヨリ其夫ニ對シテ償ヲ

得レト訴フルノ權アリ

第一千二百五十五條 然レ第一千五百六十一條

ニ循ヒ嫁資ヲ括ノ法ヲ以テ支配スル婦ノ財

産賣拂ニ付テハ夫婦タル時間其婦ニ對シテ

レスクリプションノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ
停止スヘレ

第一千二百五十六條 又左ノ場合ニ於テハ夫
婦タル時間其婦ニ對レテアレスクリプション
ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可レ

第一 婦其財産ノ共通ヲ解除レタル後
其財産ヲ受クルヲ肯スルヲ又ハ肯セ
サルヲ決シタル上ニ非サレハ自カ
ラ訴訟ヲ為スヲ得サル場合

第二 夫其婦ノ承諾ナクテ婦ニ屬ス

ル財産ヲ賣拂ヒ其賣拂ノタル財産ニ
付テノ保證ヲ為シタル場合第一千六百
二十六條
以下其他婦ヨリ其夫ニ對レテ訴訟ヲ
為スニ至ル可キ場合

第一千二百五十七條 左ノ諸件ニ付テハアレ
スクリプションノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停
止ス可レ

第一 未必ノ條件ニ管スル義務ニ付テ
ハ其未必ノ條件ノ現ニ生スル時ニ至
ル迄第一千八百一
十一條以下見合

第三 賣拂フタル物件ノ保證ニ管レテ
 為ス可キ訴訟ニ付テハ其買主他人ヨ
 リ其物件ヲ奪ハル、時ニ至ル迄第六百
 二十六條
 以下見合

第三 預定シタル期日ニ至リ得可キ義
 務ニ付テハ其日ニ至ル迄

第二千二百五十八條 遺物財産ノ價高ニ至ル
 迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權アル相續人ニ
 對シテハ其相續人其遺物財産中ヨリ得可キ
 義務ニ付キブレスクリプンノ權ヲ得可キ

期限ノ經過ヲ停止ス可レ
 遺物相續人ノ虧缺シタル遺物財産ニ對シテ
 ハ其「ミラト」ルヲ任シタルト否トヲ問ハス
 「ブレスクリプン」ノ權ヲ得可キ期限ノ經過
 ヲ停止ス可カラス
 第二千二百五十九條 遺物相續人目錄ヲ記ス
 ル為メノ三月ノ期限並ニ熟思ヲ為スタノノ
 四十日ノ期限ノ間ト雖ハ他人「ブレスクリプ
 シ」ノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ停止ス可カ
 ラス

○第五章 プレスクリプションノ權ヲ得
ルニ必要ナル期限

○第一款 總規則

第二百六十條 プレスクリプションノ權ヲ
得可キ期限ハ日ヲ以テ算ス可ク時ヲ以テ算
ス可カラス

第二百六十一條 期限ノ最終ノ日ノ終リ
シ時ニ至リプレスクリプションノ權ヲ得可
キ

○第二款 三十年間ノプレスクリプ
ション

第二百六十二條 人權及ヒ物權ニ付テノ
訴訟ハ三十年ヲ以テプレスクリプションノ權
ヲ得可キ期限トス但シ其プレスクリプション
ノ權ヲ得ントスル者ハ嘗テ其物件ヲ得タル
證書ヲ出スニ及ハス又其プレスクリプション
ヲ妨ケントスル者ハ其プレスクリプションノ
權ヲ得ントスル者ノ嘗テ不正ニ其物件ヲ所
得ト為レタルトテ述フルヲ得ス

第二百六十三條 年金ノ證書ノ日附ヨリ
二十八年ノ後ニ至リ之ヲ受取ル可キ者又ハ

其代権人更ニ其新ナル證書ヲ得ント要ムル
時ハ之ヲ拂フ可キ者自費ニテ其新ナル証書
ヲ渡サ、ルヲ得ス

第一千二百六十四條 此卷ニ記スル所ヨリ更
ニ他ノ條件ニ付テノ「ブレスクリプシ」ノ規
則ハ各其條件ニ管スル卷ニ之ヲ記ス

○第三款 十年ト二十年トノ「ブレス
クリプシ」

第一千二百六十五條 詐偽ナク正シキ證書ニ
因リ不動産ヲ占有シタル者ハ其所有者不動

産所在ノ地ノ上等裁判所ノ管轄内ニ住スル
時ハ十年ヲ以テ「ブレスクリプシ」ノ權ヲ得
又其所有者其管轄外ニ住スル時二十年ヲ以
テ「ブレスクリプシ」ノ權ヲ得可シ

第一千二百六十六條 前條ニ記レタル不動産
ノ所有者其上等裁判所ノ管轄内ト管轄外ト
ニ住レタル時ハ其管轄内ニ居住スル時間ノ
十年ニ足ラサル年數ニ其管轄外ニ居住スル
年數ノ中其不足ノ年數ヲ二倍レタル數ヲ加
ヘテ其占有者「ブレスクリプシ」ノ權ヲ得可

第二千二百六十七條 法式ニ背キタルニ因リ
効ナキ證書ハ十年ト二十年トノ「プレスクリ
プション」ノ權ヲ得可キ憑據ト為ス可カラス
第二千二百六十八條 「プレスクリプション」ノ權
ヲ得ル者ハ通常正レキ名義ヲ以テ之ヲ得タ
リト思料ス可レ故ニ其名義不正ナリト述
ル者ハ別段其證ヲ立ツ可レ
第二千二百六十九條 「プレスクリプション」ノ權
ヲ得ルニハ財産ヲ占有スル者之ヲ得タル時

正レキ名義アルヲ以テ是レトス
第二千二百七十條 建築者及ヒ請負人ハ十年
ノ後ニ至リ其嘗テ建造レ又ハ指令シタル建
造物ヲ保證スルノ義務ヲ免カル可シ第九十七
條以下見合

○第四款 別段ノ「プレスクリプション」

第二千二百七十一條

學藝ノ授業師其毎月授ケタル業ノ謝金
ヲ得ルニ付キ為キ可キ訴訟
旅舎及ヒ飲食店ノ主人其旅賃及ヒ飲食

料ヲ得ルニ付キ為ス可キ訴訟
工丁、雇夫其給料、雇料ノ償ヲ得ルニ付キ
為ス可キ訴訟

此等ノ訴訟ニ付テハ六月ヲ以テブレンスクリ
グインノ權ヲ得可キ期限トス

第二百七十二條

内科外科ノ醫師及ヒ製藥者其訪問、診察、
藥品ニ付キ償ヲ得可キ訴訟
門監證書類ヲ送達シ及ヒ裁判所ノ言渡
ヲ執行ヲタルニ付キ其謝金ヲ得可キ訴訟

訟

商人ヨリ商人ニ非サル者ニ賣拂フタル
商品ノ代金ヲ得可キ訴訟
裁塾ノ授業師其子弟ノ飲食料ノ代金ヲ
得可キ訴訟及ヒ其他ノ授業師期限ヲ定
メ業ヲ授ケタル子弟ノ飲食料ヲ得可キ
訴訟
一年ヲ期トシテ雇フタル僕婢其給料ヲ
得可キノ訴訟

此等ノ訴訟ニ付テハ一年ヲ以テブレンスクリ

プ旨レノ權ヲ得可キ期限トス

第二千二百七十三條 訴訟ノ代書師其費用ト謝金トヲ得可キ訴ニ付テハ訴訟ノ裁判言渡ノ日又ハ原告被告雙方ノ者和解ヲ為レタル日又ハ其代書師ヲ易ヘタル日ヨリ二年ヲ以テ「ブレ」スクリプ旨レノ權ヲ得可キ期限トス
○又其訴訟ノ未タ終ラサル時ハ其代書師ノ費用ト謝金トヲ得可キ訴ニ付キ「ブレ」スクリプ旨レノ權ヲ得可キ期限ヲ五年ナリトス

第二千二百七十四條 前數條ノ場合ニ於テ絶

ヘス飲食料ヲ給レ商品ヲ賣リ使用ヲ受ケ造營工作ヲ為レタルト雖モ「ブレ」スクリプ旨レノ權ヲ得レトスル者之ヲ得ルニ付テハ妨トナレ「ブレ」ナカレ可シ

然ル義務ヲ認ムル算計書又ハ義務ヲ行テ可キ證書或ハ公正ノ證書アル時又ハ訴訟ヲ受ケタル時ハ「ブレ」スクリプ旨レノ權ヲ得可キ期限ノ經過ヲ除棄ス可シ

第二千二百七十五條 此一款ニ記スル「ブレ」スクリプ旨レノ負ヲタル者ハ其「ブレ」スクリプ

旨シノ權ヲ得ントスル者現ニ代金、雇料、謝金
 ノ償ヲ為レタルヤ否ヲ知ルヲ為ノ其者ニ
 對シテ誓ヲ求ムルヲ得可シ
 又アレスタクリブ旨シヲ負フタル者ハ其權ヲ
 得ントスル者ノ寡婦及ヒ遺物相續人又其相
 續人ノ幼年ナル時ハ其後見人ヲレテ既ニ代
 金、雇料、謝金ヲ拂フタリト思ヘル旨ヲ述ヘシ
 ムル為ノ此等ノ者ニ對シテ誓ヲ求ムルヲ得
 可シ

第一千二百七十六條 裁判役及ヒ代書師ハ訴

訟ノ裁判言渡ヨリ五年ノ後ニ至リ其管守ス
 ル證書類ヲ出ス可キ、義務ヲ免カル可シ
 又門監ハ裁判所ノ言渡書ヲ執行ヒ又ハ預カ
 リタル證書類ヲ送達シタル時ヨリ二年ノ後
 ニ至リ此等ノ書類ヲ出ス可キ、義務ヲ免カ
 ル可シ

第一千二百七十七條

無期ノ年金及ヒ畢生間ノ年金
 養料トシテ定期毎ニ拂フ可キ金高
 家屋及ヒ土地ノ貸賃

貸金ノ息銀及ヒ其他總テ一年毎ニ拂ヒ
又ハ更ニ短キ期限毎ニ拂フ可キ高

此等ノ諸件ニ付テハ五年ヲ以テブレスタリ
ノ旨ニシテノ權ヲ得可キ期限トス

第二百七十八條 此一款ノ數條ニ記シタ

ルブレスタリグ旨ニ付テハ幼者及ヒ治産

ノ禁ヲ受ケン者ニ對スルト雖モ其期限ノ經

過ヲ停止スルヲナカル可シ但シ此等ノ者ハ

其後見人ニ對シテ訴ヲ為スヲ得可シ

第二百七十九條 動産ニ付テハ現ニ之ヲ

有スルヲ以テ其所有ノ權アリト看做ス可シ

然モ動産ヲ見失ヒ又ハ之ヲ盜取セラレシ者

ハ之ヲ有スル者ニ對シ其日ヨリ三年ノ時間

其取戻ヲ求ムルヲ得可シ但シ之ヲ有スル

者ハ之ヲ已ニ渡シタル者ニ對シ其償ヲ得可

キ訴ヲ為スヲ得可シ

第二百八十條 贓物又ハ失物ヲ現ニ有ス

ル者市場又ハ糶賣ニテ之ヲ買ヒ又ハ其品物

ト同種類ノ物ヲ賣ル商人ヨリ之ヲ買フタレ

時ハ其元來ノ所有者現在之ヲ有スル者ニ其

買入レ代金ヲ償ハスシテ已ニ取戻スヲ得
ス

第二千二百八十一條 此卷ヲ布告スル時既ニ

始マリシ「^レ」^レリスクリプレシ^レハ以前ノ法律ニ
循フ可シ

又此布告ノ時既ニ始マリシ「^レ」^レリスクリプレシ
^レト雖モ以前ノ法律ニテ其權ヲ得ル為メ猶
更ニ三十年以上ノ時間ヲ経ルヲ要スルモ
ノハ其布告ヨリ後三十年ノ期限ヲ以テ其權
ヲ得可キモノトス

辻士革筆受

佛蘭西民法十六大尾

佛蘭西民法目次

第一

○前加篇自第一條至第六條凡テ法律ヲ布告スル事、法律

ヨリ生スル事、法律ヲ用フル事

○第一篇 人事

○第一卷自第七條至三十三條民權ヲ受クル事、民權ヲ

奪フ事

○第一章 民權ヲ受クル事

○第二章 民權ヲ奪フ事

○第一款 佛蘭西人タルノ分限ヲ失フ

ニ因リ民権ヲ奪フ事

○第二款 裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタ

ルニ因リ民権ヲ奪フ事

○第二卷 自第百三十四條 至第百一一條 民生ノ證書

○第一章 總規則

○第二章 出産ノ證書

○第三章 婚姻ノ證書

○第四章 死去ノ證書

○第五章 佛蘭西國外ニ在ル兵士ノ民生

ノ證書

○第六章 民生ノ證書ヲ改ル事

○第三卷 自第百一一條 至住所

○第四卷 自第百十二條 至失踪

○第一章 失踪ヲ思度スル事

○第二章 失踪ヲ公告スル事

○第三章 失踪ヨリ生スル諸件

○第一款 失踪者ノ其失踪セル時所有

スル財産ニ付キ失踪ヨリ生スル事

○第二款 失踪者ニ属スル事アル可キ

権ニ付失踪ヨリ生スル諸件

○第三款 婚姻ノ事ニ付キ失踪ヨリ生
スル事

○第四章 父ノ失踪ノ時其幼年ノ子ノ管
督スル事

第二

○第五卷 自第百二十四條至第百二十八條 婚姻ノ事

○第一章 婚姻ノ契約ヲ為スニ必要ナル

諸件

○第二章 婚姻ヲ行フニ付テノ法式

○第三章 婚姻ノ故障ヲ述フル事

○第四章 婚姻取消ノ訴

○第五章 婚姻ヨリ生スル義務

○第六章 夫婦ノ權利及ヒ義務

○第七章 婚姻ヲ解ク事

○第八章 再婚

○第六卷 自第二百二十九條至第三百一十一條 離婚

○第一章 離婚ノ原由

○第二章 定リシ原由ナル離婚ノ事

○第一款 定リシ原由アル離婚ノ規則

○第二款 定リタル原由ヲ為メ、離婚

ニ付キ假リノ處置

○第三款 定リシ原由ノ為ノ離婚ノ訴
ヲ他故ヲ述ヘ拒ム事

○第三章 雙方ノ承諾ニテ離婚ヲ為ス事

○第四章 離婚ヨリ生スル諸件

○第五章 夫婦居ヲ分ツ事

○第七卷 自第百三十二條至第百四十二條 父及母ノ事及ヒ子タル事

○第一章 婚姻ノ結トスル間ニ生レシ子
ヲ子ト為ス事

○第二章 嫡出ノ子ノ子タル事

○第三章 私生ノ子

○第一款 私生ノ子ヲ嫡出ノ子ト為ス
事

○第二款 私生ノ子ヲ我子ナリト認ム
ル事

第三

○第八卷 自第百三十三條至第百四十三條 養子ノ事及ヒ
テール、ラヒ、ビノ事

○第一章 養子ノ事

○第九款 後見人ノ算計ノ事

○第三章 幼者ノ後見ヲ免ルノ事

○第十一卷 自第四百八十八條至第五百十五條 丁年ノ事、治産

ノ禁ノ事、裁判所ヨリ任スル補佐人ノ事

○第一章 丁年ノ事

○第二章 治産ノ禁ノ事

○第三章 裁判所ヨリ命ジラル補佐人ノ

事

第四

○第二篇 財産及財産所有ノ種類

○第一卷 自第五百四十六條至第五百五十三條 財産ノ區別

○第一章 不動産

○第二章 動産

○第三章 財産ト之ノ所有スル者トノ管

係

○第二卷 自第五百七十四條至第五百八十七條 所有ノ權

○第一章 財産ヨリ生スル物ニ付キ主ニ

因テ從ヲ併スノ權

○第二章 財産ニ附加シ且合同スル物ニ

付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權

○第一款 不動産ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權

○第二款 動産ニ付キ主ニ因テ從ヲ併スノ權

○第三卷 自第五百七十八條至第六百三十六條 入額ヲ所得ト為スノ權 ヲザレトシノ權 アビタレヲシノ權

○第一章 入額ヲ所得ト為スノ權

○第一款 入額ヲ所得ト為ス者ノ權

○第二款 入額ヲ所得ト為ス者ノ義務

○第三款 入額ヲ所得ト為ス權ノ終ル

方法

○第二章 ヲザレトシノ權及ヒアビタレヲシノ權

○第四卷 自第六百三十七條至第七百十條 土地ノ義務

○第一章 地ノ位置ヨリ生スル義務

○第二章 法律ニテ定メタル土地ノ義務

○第一款 雙方ノ所有ニ屬スル分界ノ牆壁及ヒ溝渠

○第二款 造營土功ヲ為スニ必要ナル距離及ヒ二箇ノ家屋ノ中間ニ為ス

可キ造營ノ事

○第三款ノ隣地ヲ望下スル事

○第四款 承雷

○第五款 通行ノ權

○第三章 人ノ所為ニ因テ生スル土地ノ

義務

○第一款 財産ニ付生スル義務ノ種類

○第二款 土地ノ義務ヲ定ムル方法

○第三款 權利ヲ有レタル土地ノ所有

者ノ權

○第四款 土地ノ義務ノ終ル方法

第五

○第三篇 財産所有ヲ得ル種々ノ法方

○總規則 自第七百一十一條 至第七百十七條

○第一卷 自第七百十八條 至第八百九十二條 遺物相續

○第一章 遺物相續ヲ始ムル事及ヒ相續

人遺物ヲ所得ト為ス事

○第二章 遺物相續ヲ為スニ必要ナル諸

件

○第三章 遺物相續ヲ為スノ順序

○第一款 總規則

○第二款 代テ遺物相續ヲ為ス事

○第三款 卑屬ノ親遺物相續ヲ為ス事

○第四款 尊屬ノ親遺物相續ヲ為ス事

○第五款 傍系ノ親遺物相續ヲ為ス事

○第四章 規則外ノ遺物相續

○第一款 私生ノ子父母ノ遺物相續ヲ

為スノ權及ヒ子孫ナク死去シタル

私生ノ子ノ遺物ヲ相續スル權

○第二款 死者ノ配偶者ノ權及ヒ官府

ノ權

○第五章 遺物相續ヲ肯スル事及ヒ肯セ

サル事

○第一款 遺物相續ヲ肯スル事

○第二款 遺物相續ヲ肯セサル事

○第三款 遺物相續人其相續セシ財產

ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル

持權此持權ヨリ生ス可キ諸件及ヒ

此持權ヲ有スル相續人ノ義務

○第四款 遺物相續人ノ虧缺シタル財

産

○第六章 遺物分派ノ事及ヒ死者ヨリ嘗テ受ケタル贈遺ヲ返還スル事

○第一款 分派ノ訴訟及ヒ其法式

○第二款 返還ノ事

○第三款 遺物相續ニ付キ擔當ス可キ負債ヲ拂フ事

○第四款 遺物ノ財産ヲ分派レタルヨリ生スル諸件、遺物相續人分派レタル部分ヲ互ニ保證スル事

○第五款 遺物財産ノ分派ヲ取リ消ス事

第六

○第二卷 自第八百九十三條至第千百條 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ノ證書

○第一章 總規則

○第二章 生存中ノ贈遺及ヒ遺囑ノ贈遺ヲ為シテ人ニ財産ヲ贈與シ又ハ之ヲ收受スルニ必要ナル諸件

○第三章 隨意ニ贈遺ト為スヲ得可キ財

産ノ定分及ヒ贈遺ト為シタル財産ヲ減スル事

○第一款 贈遺ト為スヲ得可キ財産ノ定分

○第二款 贈物ト為シタル財産ヲ減スル事

○第四章 生存中ノ贈遺

○第一款 生存中ノ贈遺ノ法式

○第二款 生存中ノ贈遺ノ證書ヲ廢棄ス可カラサル規則外ノ諸件

○第五章 遺囑ノ贈遺

○第一款 遺囑ノ贈遺ノ法式ニ付テノ

總規則

○第二款 別段ノ遺囑贈遺ノ法式ニ付テノ規則

第七

○第三款 遺囑贈遺ノ證書ノ種類

○第四款 財産ノ全部ノ遺囑贈遺ノ證書

一

○第五款 財産中ノ別段指定ノサル一

部ノ遺囑贈遺ノ證書

○第六款 遺囑者財産中ノ別段指定ノタル品物ノ贈遺

○第七款 遺囑者ノ託ヲ受ケ遺囑ノ諸事ヲ管理スル者

○第八款 遺囑贈遺ノ證書ヲ廢棄スル事及ヒ遺囑贈遺ノ證書ノ効ナキ事

○第六章 生存中贈遺又遺囑贈遺ヲ為ス者其孫ノ為メナス所ノ約定又ハ其甥姪ノ為メナス所ノ約定

○第七章 父母又ハ其他ノ尊屬ノ親其財産ノ卑屬ノ親ニ分派スル事

○第八章 婚姻ノ契約ヲ以テ夫婦又ハ其婚姻ニ因リ生ス可キ子ノ為メニナス所ノ贈遺

○第九章 婚姻ノ契約書ヲ以テ夫婦互ニ為ス所ノ贈遺及ヒ婚姻ヲ結ヒタル時間夫婦互ニ為ス所ノ贈遺

第八

○第三卷 自第千一百一十一條至第千三百六十九條 契約及ヒ總テ契

約ヨリ生ズル義務

○第一章 前加規則

○第二章 契約ヲ法ニ適シタルモノト為スニ必要ナル條件

○第一款 義務ヲ行フ可キ者ノ承諾

○第二款 契約ヲ為ス者其契約ヲ結ビ得可キ事

○第三款 契約ノ目的タル定マリシ事物

○第四款 契約ノ原由

○第三章 契約ノ義務ノ効

○第一款 總規則

○第二款 物ヲ與フ可キノ義務

○第三款 事ヲ為ス可キノ義務及ヒ事ヲ為ス可カラサルノ義務

○第四款 義務ヲ行ハサルヨリ生スル損失ノ償

○第五款 契約書ヲ解釋スル事

○第六款 契約ヲ結ビレ以外ノ者ニ付キ其契約ノ効

○第四章 契約ノ義務ノ種類

○第一款 未必ノ條件ニ管スル契約ノ義務

○第一節 總テ義務ヲ行フト行ハサルトヲ定ムル未必ノ條件及ヒ其種類

○第二節 義務ノ執行ヲ停止スル未必ノ條件

○第三節 義務ヲ解除スル未必ノ條件

○第二款 執行ノ期限アル義務

○第三款 二箇ノ中ノ一ヲ擇ムヲ得可キ義務

○第四款 連帶シタル義務

○第一節 義務ヲ得可キ者數人ノ連帶スル事

○第二節 義務ヲ行フ可キ者數人ノ連帶スル事

○第五款 分ツ可キ義務及ヒ分ツ可カラサシ義務

- 第一節 分ツ可キ義務ノ効
 - 第二節 分ツ可カラサル義務ノ効
 - 第六款 契約ノ如ク行ハサル時ハ過代ヲ出ス可キ約束ルル義務
- 第九

- 第五章 義務ノ消散スル事
- 第一款 義務ヲ盡クス事
- 第一節 總テ義務ヲ盡クス事
- 第二節 義務ヲ盡クス可キ者ニ代テ之ヲ盡レタル人義務ヲ得可キ

者ノ權ニ代ル事

- 第三節 數箇ノ義務中一ヲ盡クスニ充テ用フル事

- 第四節 義務ヲ行可キ者其義務ヲ盡クサント提供スル事及ヒ其負ヲタル諸件ヲ官署ニ預クル事

- 第五節 義務ヲ行フ可キ者其財産ヲ拋棄スル事

- 第二款 義務ノ更改スル事
- 第三款 義務ヲ得可キ者ノ意ヲ以テ

其義務ヲ釋放スル事

○第四款 二箇ノ義務ノ互ニ相殺スル事

○第五款 權利ト義務ト渾同スル事

○第六款 引渡ス可キ物ノ滅盡スル事

○第七款 契約ヲ廢棄スル事

○第六章 義務ノ證及ヒ義務ヲ盡クシタルノ證

○第一款 證書

○第一節 公正ノ證書

○第二節 私ノ證書

○第三節 符木

○第四節 證書ノ副本

○第五節 義務ヲ認ムルノ書及ヒ義務ヲ確的ニ為スノ書

○第二款 證人

○第三款 思料ノ事

○第一節 法律上ニ定メタル思料ノ事

○第二節 法律上ニ定メサル思料ノ事

事

○第四款 一方ノ者ノ自認

○第五款 擔ノ事

○第一節 訴訟審判ノ事

○第二節 裁判役ノ其職務ニ因リ命

シタル擔

○第四卷 自第千三百八十六條 至 契約ヲクシテ

生スル義務

○第一章 「カジコントラ」

○第二章 故意ヲ以テ人ニ損害ヲ加ヘル

ル所行及ヒ故意ニ非スレテ人ニ損害
ヲ加ヘタル所行

第十

○第五卷 自第千三百八十七條 婚姻ノ契約書

及ヒ夫婦雙方ノ權

○第一章 總規則

○第二章 夫婦財産共通ノ法

○第一則 法律ヨリ生レタル財産共通

ノ法

○第一款 共通財産ノ利得及ヒ負債

○第一節 共通財産ノ利得

○第二節 共通財産ノ負債及ヒ其負

債ニ付キ受ク可キ訴訟

○第二款 共通ノ財産ヲ支配スル事及

ヒ夫又ハ婦ノ記レタル證書ノ効

○第三款 財産ノ共通ヲ解除スル事及

ヒ其解除ヨリ生スル條件

○第四款 婦共通ノ財産ヲ受クルヲ肯

スル事及ヒ肯セサル事并ニ其事ニ

管シタル必要ノ條件

○第五款 共通ノ財産ヲ受クルヲ肯

レタル後其財産ヲ分派スル事

○第一節 利得ヲ分派スル事

○第二節 夫婦共通ノ負債及ヒ其負

債ヲ夫婦雙方ニ分派スル事

○第六款 共通ノ財産ヲ受クルヲ肯セ

サル事及ヒ之ヲ肯セサルヨリ生ス

ル諸件

○夫婦中ノ一方ノ者又ハ雙方ノ者前婚

ノ子ナル時法律財産ノ共通ニ管シ

タル規則

第十一

○第二則 契約ヨリ生スル財産ノ共通

○法律上ノ財産ノ共通ヲ更改シ又ハ除去ス可キ契約

○第一款 夫婦タル時間ニ買入レタル財産ノミヲ共通スル事

○第二款 動産ノ全部又ハ一部ヲ共通ノ財産中ニ加入セサル契約

○第三款 不動産ヲ動産ト看做ス契約

○第四款 夫婦其債ヲ各自ニ拂フ可キ

契約

○第五款 夫婦財産ノ共通ヲ解除スル

時婦共通ノ債ヲ全ク擔當スルヲナク其嘗テ共通ノ財産中ニ加入セシ財産ヲ取戻ス可キ事

○第六款 夫婦中ノ後ニ生存スル者其財産ノ分派ヲ為ス前ニ或ル財産又ハ金高ヲ預メ已レニ引取ル可キ契約

○第七款 夫婦共通ノ財産中ニテ互ニ

均レカラサル部分ヲ得可キ契約

○第八款 夫婦ノ間ニ其財産ノ全部ヲ

共通ス可キ事

○前ノ八款ニ通レテ用フ可キ規則

○第九款 夫婦財産ノ共通ヲ除去ス可

キ契約

○第一節 夫婦ノ其財産ヲ共通セス

婚姻ヲ結フ契約

○第二節 夫婦財産ヲ分別スル契約

○第三章 嫁資ヲ分括スル法

○第一款 財産ヲ嫁資ト為ス事

○第二款 嫁資ノ動産ニ付テ夫ノ權

及ヒ嫁資ノ不動産ヲ賣拂フ可カラ

サル事

○第三款 嫁資ヲ返還スル事

○第四款 嫁資外ノ婦ノ財産

○格別ノ規則

第十二

○第六卷 自第千五百八十二條賣買ノ事

○第一章の賣買ノ本義及ヒ法式

○第二章 賣買ヲ為シ得可キ人ノ事

○第三章 賣拂ヲ得可キ物件

○第四章 賣主ノ義務

○第一款 總規則

○第二款 引渡ノ事

○第三款 賣主其賣拂ヲタル物件ヲ買

主ニ對シテ保證スル事

○第一節 他人ヨリ訴訟ヲ受ケ其買

入タル物件ヲ奪ハル、ヲナキ旨

ヲ賣主ヨリ保證スル事

○第二節 賣主其賣拂ヲタル物件ノ

不良ナラサル旨ヲ保證スル事

○第五章 買主ノ義務

○第六章 賣買ノ契約ヲ廢棄スル事

○第一款 買戻ノ權

○第二款 賣主ノ為メ損失アル原由ヲ

以テ賣買ノ契約ヲ廢棄スル事

○第七章 糶賣ノ事

○第八章 義務ヲ得可キノ權利及ヒ其他

ノ權利ヲ人ニ移ス事

○第七卷 自第七百二十七條至第七百七十七條 交換ノ事

第十三

○第八卷 自第七百三十八條至第七百四十一條 借貸ノ契約

○第一章 總規則

○第二章 物件ノ借貸

○第一款 家屋及ヒ土地ノ借貸ノ契約

ニ通シ用フ可キ規則

○第二款 家屋ノ借貸ニ付テハ別段ノ

規則

○第三款 土地ノ借貸ニ付テハ別段ノ規

則

○第三章 人力ノ借貸

○第一款 僕婢及ヒ工丁ノ雇ノ事

○第二款 水陸ノ運送ヲ為ス者ノ雇ノ

事

○第三款 請負ノ契約

○第四章 獸類ノ貸借

○第一款 總規則

○第二款 獸類ノ通常ノ貸借

○第三款 雙方互ニ獸類ノ數ノ半ハヲ
出合スル貸借

○第四款 土地ノ所有者ヨリ其土地ヲ
借受クル者ニ獸類ヲ貸與フル契約
又ハ其所有者ト其土地ノ利益ヲ分
ツ可キ約束ニテ其地ヲ借受クル者
ニ獸類ヲ貸與フル契約

○第一節 土地ノ所有者其土地ヲ借
受クル者ニ獸類ヲ貸與フル契約
○第二節 土地ノ所有者ト其地ノ利

益ヲ分ツ可キ約束ニテ土地ヲ借
受クル者ニ其所有者ヨリ獸類ヲ
貸與フル契約

○第五款 通常不當ニ獸類ノ貸借ノ契
約ト稱スル契約

○第九卷 自第千八百三十二條 會社ノ契約

○第一章 總規則

○第二章 會社ノ種類

○第一款 諸般ノ財産ニ付テノ會社

○第二款 別段定メタル財産ニ付テノ

會社

○第三章 社中各人ノ間ニ互ニ行フ可キ義務及ヒ會社外ノ人ニ對シ行フ可キ義務

○第一款 社中各人ノ間ニ互ニ行フ可キ義務

○第二款 會社中ノ者會社外ノ人ニ對シ行フ可キ義務

○第四章 會社ノ終ル可キ方法

○貿易會社ノ規則

○第十卷 自第一千八百七十四條 貸借

○第一章 耗盡セサル物ノ貸借

○第一款 耗盡セサル物ノ貸借ノ本義

○第二款 借主ノ義務

○第三款 貸主ノ義務

○第二章 耗盡ス可キ物ノ貸借

○第一款 耗盡ス可キ物ノ貸借ノ本義

○第二款 貸主ノ義務

○第三款 借主ノ義務

○第三章 息銀アル貸借

第十四

○第十一卷 自第九百六十三條至附託ノ事及
ト雙方相争ノ物ヲ人ニ附託スル事

○第一章 總テ附託ノ事及ト附託ノ種類

○第二章 通常ノ附託

○第一款 附託ノ契約ノ本義

○第二款 隨意ノ附託

○第三款 附託ヲ受クル者ノ義務

○第四款 附託ヲ為ス者ノ義務

○第五款 已ムヲ得サル附託

○第三章 雙方相争ノ物ヲ人ニ附託スル

事

○第一款 雙方相争ノ物ヲ人ニ附託ス

ル事ノ種類

○第二款 雙方相争ノ物ヲ互ニ契約レ

テ人ニ附託スル事

○第三款 雙方相争ノ物ヲ裁判所ノ言

渡ヲ以テ人ニ附託スル事

○第十二卷 自第九百六十四條偶生ノ事ニ

管スル契約

○第一章 玩耍及賭博

○第二章 畢生間ノ年金ノ契約

○第一款 畢生間ノ年金ノ契約ヲ法ニ

適シタル物ト為スニ必要ナル條件

○第二款 畢生間ノ年金ノ契約ヲ為ス

雙方ノ間ニ其契約ヨリ生スル條件

○第十三卷 自第一千九百八十四條至第一千九百八十四條 名代ノ證書

○第一章 名代ノ證書ノ本義及ヒ法式

○第二章 名代人ノ義務

○第三章 本人ノ義務

○第四章 名代ノ任ノ終ル法方

○第十四卷 自第一千四十三條至第一千四十三條 保證

○第一章 保證ノ本義及ヒ其定限

○第二章 保證ヨリ生スル條件

○第一款 義務ヲ得可キ者ト保證人ト

ノ間ニ保證ヨリ生スル條件

○第二款 本人ト保證人トノ間ニ保證

ヨリ生スル條件

○第三款 保證人數人ノ間ニ保證ヨリ

生スル條件

○第三章 保證ノ義務消散スル事

○第四章 法律上ヨリ生スル保證及ヒ裁

判言渡ヨリ生スル保證

○第十五卷 自第二千四十八條 和解

○第十六卷 自第二千五十九條 禁錮

○第十七卷 自第二千七十一條 質物ノ事

○第一章 動産ノ質

○第二章 不動産ノ質

第十五

○第十八卷 自第二千九十二條 質物ノ事

及ヒイポタークノ權

○第一章 總規則

○第二章 質リウレージノ權

○第一款 動産ニ付テノ質リウレージ

ノ權

○第一節 總テノ動産ニ付テノ質リ

ウレージノ權

○第二節 別段定マリシ動産ニ付テ

ハコトイウレージノ權

○第三款 不動産ニ付テノ質リウレ

ジノ權

○第三款 動産ト不動産トニ及ボス可

キアリタレドノ權

○第四款 アリタレドノ權ヲ保ツ可

キ方法

○第三章 「イポテーク」ノ權

○第一款 法律上ニテ得ル所ノ「イポテ

ーク」ノ權

○第二款 裁判所ノ言渡レニ因リ得ル

所ノ「イポテーク」ノ權

○第三款 契約ニ因リ得ル所ノ「イポテ

ーク」ノ權

○第四款 「イポテーク」ノ權ノ順序

○第四章 アリタレドノ權及ヒ「イポテ

ーク」ノ權ヲ記入スルノ方法

○第五章 「イポテーク」ノ權又ハ「アリタレ

ド」ノ權ノ記入ヲ塗抹スル事及ヒ減

殺スル事

○第六章 義務ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ

所有ト為シタル者ニ付キ「アリタレド

「又ハ「イポターク」ノ權ヨリ生スル諸件

○第七章 「プリオリ」ノ權及ヒ「イポターク」ノ權ノ消散スル事

○第八章 「プリオリ」ノ權及ヒ「イポターク」ノ權ヲ滌除スル方法

○第九章 夫又ハ後見人ノ不動産ニ付キ「イポターク」ノ權ノ記入アラサル時其「イポターク」ヲ滌除スル方法

○第十章 「イポターク」ノ官署ノ簿冊ヲ公

ケニスル事及ヒ「イポターク」ノ管轄者ノ擔當ス可キ條件

第十六

○第十九卷 自第百二十四條至義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償ト

レテ奪フ事及ヒ義務ヲ得可キ者ノ順序

○第一章 義務ヲ得可キ者之ヲ行フ可キ者ノ不動産ヲ抵償トシテ奪フ事

○第二章 義務ヲ得可キ者ノ順序及ヒ不動産價高ノ分派

○第二十卷 自第一千二百八十一條至
第一千二百八十九條 至
プレスク
リプレシノ權

○第一章 總規則

○第二章 物件ヲ占有スル事

○第三章 プレスクリプレシノ權ヲ得ル
ト能ハサル原由

ト能ハサル原由

○第四章 プレスクリプレシノ權ヲ得可
キ期限ノ既ニ経過シタル時間ヲ除棄
スル原由及ヒ其期限ノ経過ヲ一時停
止スル原由

キ期限ノ既ニ経過シタル時間ヲ除棄
スル原由及ヒ其期限ノ経過ヲ一時停
止スル原由

○第一款 プレスクリプレシノ權ヲ得
可キ期限ノ既ニ経過シタル時間ヲ
除棄スル原由

可キ期限ノ既ニ経過シタル時間ヲ
除棄スル原由

○第二款 プレスクリプレシノ權ヲ得
可キ期限ノ経過ヲ一時停止スル原
由

可キ期限ノ経過ヲ一時停止スル原
由

○第五章 プレスクリプレシノ權ヲ得ル
ニ必要ナル期限

ニ必要ナル期限

○第一款 總規則

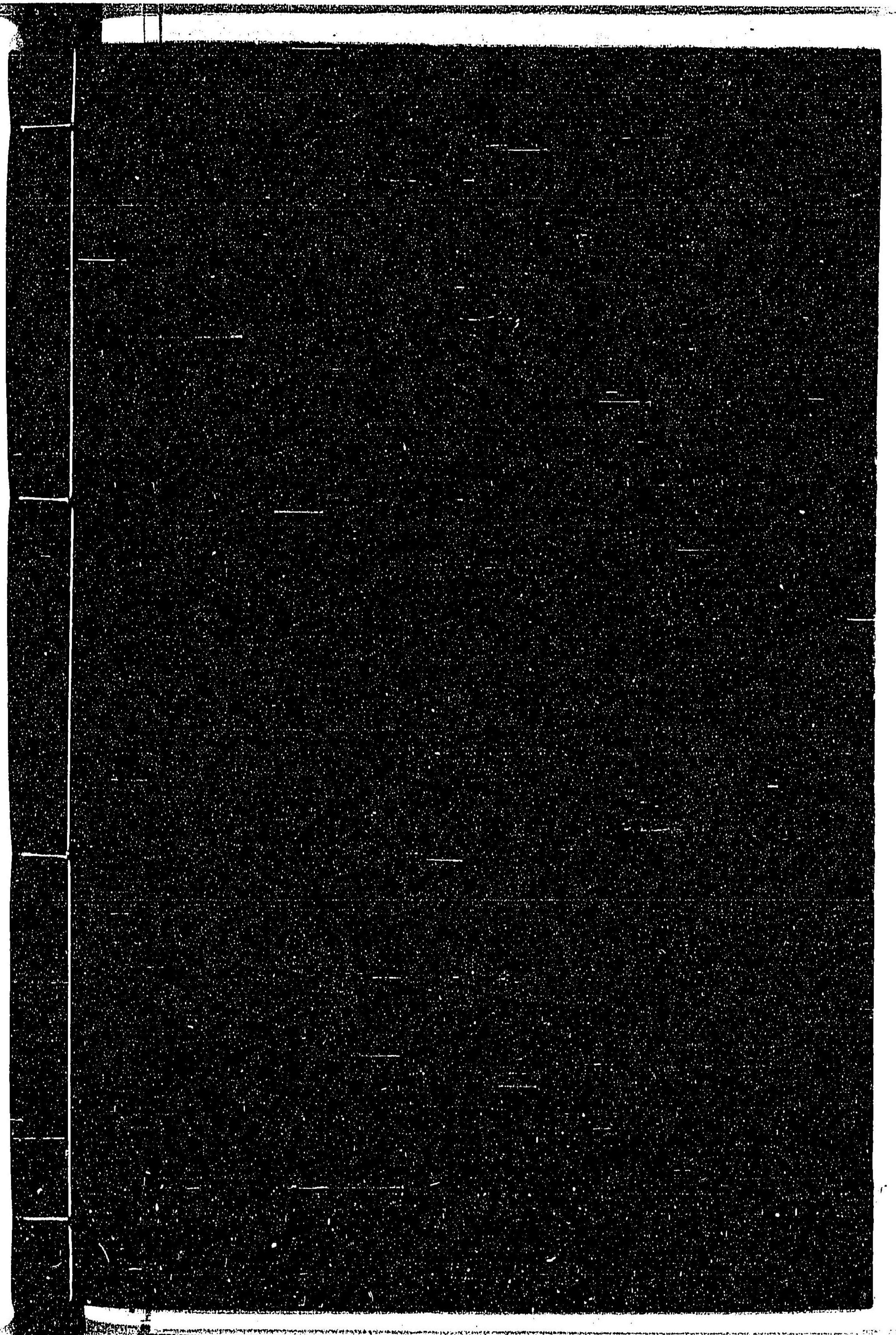
○第二款 三十年間ノプレスクリプレシ

第三款 十年ト二十年トノブレスク

リプギン

第四款 別段ノブレスクリプギン

佛蘭西民法目次終



佛蘭西
書
茂林
共

CF2
3
07

| | |
|-------|----|
| 北京圖書館 | 新 |
| 西一 | 門 |
| 架一 | 品一 |
| 號九〇四 | 組 |

共十六本